

レコード軽術



No. 37 April 2006

4

〔新企画〕

古田秀和

「之も楽しむ者に如かず」

モーツァルト

ニセ

手紙事件

Wolfgang Amadeus Mozart



「今月のアーティスト」西田 改正

貸スタジオの大手 ライブステージ

live stage



全国展開中

06年4月1日現在

408

各スタジオはマンションの中にありますが、強固な作りのものを選んであり、過剰といえるほどの防音処理をしてあります

どなたも名演奏家に変身

各スタジオには専任の一级録音技師が常駐、演奏の疵は豊富な在庫を誇るCDからサンプルして差し替えます。



やはりESシリーズは凄い！

ヴィンテージ・トランジスタアンプ TA1120 が戻ってきた



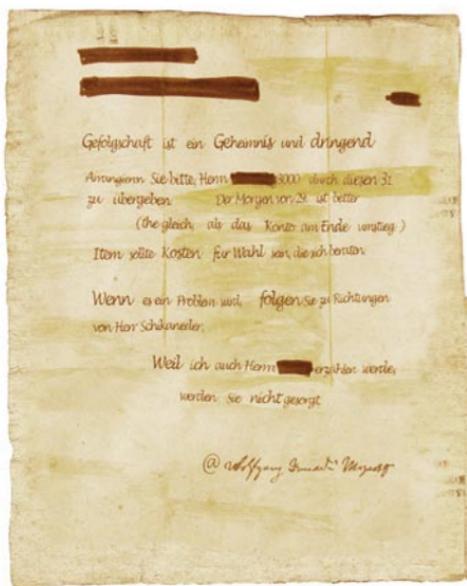
ソニー製品のクローンに成功した韓国・N G電子の黄技術部長



お買いあげになった方から先着 10 名様へどこにでも貼れる P S E マークのシール (10 枚綴り) を贈呈します

眞贋論争に明け暮れたザルツブルク

モーツァルト偽手紙事件



本年はモーツァルト生誕二五〇年とあって、いろいろなイベントが行われている。多分に商業主義のにおいはするものの、モーツァルト・ファンにとつては話題に事欠かない年になりそうだ。

ドキリとした話もあった。この記事を執筆時点でまだ完全に片づいていないので、あつたというにはまだ早い。モーツァルトの生地ザルツブルクでは連日新聞の社会面のトップを飾っていた。それは新たなモーツァルト毒殺説である。それだけなら、これまで何度も映画や戯曲にされてきたので、ちよつとやそつとでは注目されないが、物的証拠が出てきたというのだから、たごつてない。

きつかけは当地では著名な音楽評論家N氏が音楽学会誌に発表した記事である。それによると、モーツァルトによって書かれた手紙が新たに見つかり、その内容からモーツァルトからフリーメイソンへ多額の資金が流れていたことが伺われるというのだ。モーツァルトは晩年にはおびただしき借金の手紙を書き残しているが、その裏に驚くべき事実があったという。

冒頭に掲げた写真はその手紙であるが、ドイツ語であり、不鮮明な箇所もあるので、下にその訳を示す。〇〇と伏せてあるのは、事態の進展により情報提供者に迷惑がかかること、駆け引きの際に不利を招かないようにしたいという理由でN氏の手により黒く塗つぶしてある箇所である。

シークレット・至急扱いで処理して欲しいんだけど、おそくとも31日できれば、29日朝までに〇〇さん宛に3000グルデンを振り込むように手配してください(前回、振り込んだ口座と同じでOK).

項目は、選挙コンサルティング費で処理してね。

問題があるようならば、シカネーダーの指示を仰いで。〇〇には、こちらからも伝えておくので心配しないで。

シカネーダーとは当時の興行師で、オペラの台本も書き、「魔笛」の成功に大きく関わった重要人物である。N氏によれば、振り込み先の人物はフリーメイソンのオーストリアのロッジと呼ばれる支部の会計責任者であることがわかったという。支社には今日も多くの関連資料が保管され、これまで幾度も出ては消えた「フリーメイソンによる毒殺説」を裏付ける決定的な証拠があるに違いないというのだ。

驚いたのは現に存在し、活動も行っているフリーメイソンの支部。はじめは「ガセネタだ」と一蹴していたものの、N氏が勿体ぶって具体的な証拠を出さないので、反論すればするほど論点がおかしなところへ拡散、政治問題化する始末。

そのうちに、この手紙はコピーに過ぎず、筆跡がモーツアルトのものとするには無理があること、第一にドイツ語としてきちんとした文章になっていない箇所があるなど数々の疑問が寄せられ、とうとうN氏も信憑性に欠けることを認めるに至った。

この間一ヶ月、N氏の評論家生命は絶たれたといってもよからう。その一方で漁夫の利を得たのが、知名度がますます高まって多くの客を迎えた地元観光業者である。陰謀説もある。

偽作とされたモーツアルトの手紙はこれまでもいくつもあり、今回の事件は話題性の点でまさに生誕二五〇年にふさわしい。やはりモーツアルトは凄い。

之も楽しむ者に如かず

古田秀和

Hidekazu FURUTA

今月のテーマ

変わらないもの

西日が小高い丘の上の桜の木を最後に照らしなが沈んでいく。ほとんど満開を迎えるばかりの花がひときわ浮かび上がる。夕日の中の桜、その情景に出会うたび少年の頃、叔父と川の土手の上で日が暮れるまで話し込んだ日のことを思い出す。「ほらごらん、木々も草花も芽吹いてきているだろう、どの芽もつらい冬をじっと我慢してここまで来たんだよ」

そこにあつた桜はどんなだったかはよく憶えて

いないが、暖かくなった風が運んでくる新芽の薫りとも呼びたい肌触りは今でもリアルに想い出せる。

「みんな同じつらさを背負ってきたんだ、草花たちは語り合えないけれど」

そのときの私は何で落ち込んでいたのか、それも記憶に定かではないけれど、叔父は私を励まそうとしていたのだ。

「人生の中では君はまだ新芽、この花たちと



一緒に天へ天へと伸びていくんだ。そんなお祭りの中にいるんだよ、今は」

そんなことを叔父が語ったとき、なにか暖かいものが胸の中に広がり、元気が出、すっかり叔父が好きになってしまった。

不幸にも、その翌年の花見の時期には叔父はこの世にいなかった。叔父から音楽を聴けといわれたことはなかったが、そのころから叔父の残したLPを聴きまくり、今も愛して止まぬいくつかの名演奏はそのころ出会ったものである。

大きな感動を残す人との出会いというものがあつた。こんなすばらしい人がこの世にいたのか——その最たるものが一目惚れだろうか——と感激しても、それぞれの社会でいろいろな道を歩みながら生活してきて、さらに老いていけば状況は変わる。何かの理由で関係が悪くなつてしまつたら、かつて楽しく談笑した日々を取り戻したくても、名演奏を聴き直すようにはいかない。

愛蔵盤は裏切らない。何年も間があいた再会であつても、向き合えば必ず何かの返事をしてくれる。失望や落胆、そして、もう会えなくなつてしまつた愛しい人の思い出までにも、何度も何度も相槌を打つてもらえる。同じ音楽の同じ演奏なのに、いろいろな状況の下でさまざまな語り口に聞こえてくる。

叔父が世を去つてから長い年月が経つたが、その後も私が人生を歩む様を音楽を通じていろいろな語りかけで見守つてくれているのではないかと、そう思うとき、なにか暖かいものが胸の中に広がり、元気が出てくるのだ。

人との出会いと芸術作品との出会いとは相手の心の表現を受け止める点では共通している。芸術作品は「物」としては不変だけれど、誠実に向き合つていけばさまざまに出会いができるのだ。

新譜
月評
Apr 2006
4.

4月号新譜月評

■ベートーヴェン 交響曲第三番《英雄》
詰腹政治指揮 はやぶさフィル

■武満徹《環》

小泉変一郎指揮 白鳥 朋 (fl) 鷺山 旭 (g)
中馬 安彦 (lute)

■《誰も寝てはならぬ》亀川静香オペラ
アリア集

小泉変一郎指揮 亀川静香 (T) 永田町
管弦楽団

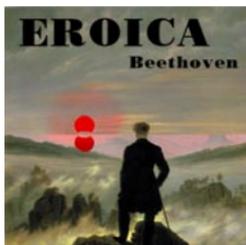
交響曲 宇野咆吼
室内楽曲 諸君幸生
声楽曲 北海又帰
録音評 三井住友

(評外)

ワイル《三文オペラ》

橋下暗太郎指揮 村岡金造 (B) 他

雄
 〇ベートーヴェン…交響曲第三番《英雄》



詰腹政治指揮 はやぶさ
 フィル

本誌初登場のオーケストラである。永田町に本拠地を構えるが、オケの名称に

永田町を入れると永田町管弦楽団と差別化が出来ないというので、隣の町名であり、至近の交差点名にもなっている隼町から名を取った。

今や永田町管弦楽団から客を奪えるのはわがオケだけという意気込みで発足し、これは創立10周年の記念ディスクである。

このディスクがきっかけで起こった一連の騒動について述べておこう。この発端は収録の際トランペットのN氏が楽譜とは異なる音符を使って吹いたことにある。ベートーヴェン時代の管楽器にはいろいろな制約があり、今日の楽器に合

わせていろいろな改訂版が出ているがそのどれにも該当しないものだった。

つまり、単なるミスなのに、指揮者がそれを指摘しないままCD化されてしまったのだ。まずいことに、ミスに気が付かなかつたことをすぐにすんなりと詫びればよいものを、どこそこの版であるが手元にはないとか、その版である確証は持っているとか、N氏を信頼しているとか、体面を保つのに時間稼ぎのようなことを続けた。要するに、N氏のミスであることを認めると、それに気が付か

なかつた指揮者の力量が疑われるので保身に走つたのである。

もちろん、間違つた演奏をしたN氏に最も責任があり、彼の力量一般にも疑問符が付けられていたので辞任は必至と見られていたが、本稿の執筆時点でその動きはない。事態は混迷化の一途をたどっている。

前置きが長くなつたが、演奏は意欲は感じられるものの、精度を欠き、奇をてらつたような表現が耳障り。本物の《英雄》が演奏できるオケが欲しい。

「録音評」

左右の広がりは大いだが、まとまりに欠ける。ときに左側のレベルが異常に下がる。機材のせいなのかそのような演奏なのか不明。

■武満徹 ●《環》



小泉変一郎指揮 白鳥 朋
(fl) 鷺山 旭 (g) 中馬 安彦
(lute)

外務省が政府の肝いりで企画した「東

アジア芸術祭」でのライブ録音である。演奏者が三人なのに、なぜ指揮者がいるのか不思議がる方も多いことだから、説明しておこう。

まず、指揮者付で演奏された例はないわけではない。小学館から発売中の全集にも若杉弘指揮の録音が入っている。このディスクの録音も若杉指揮の場合と同様、他の大編成の作品の演奏の際に「抱き合わせ」で収録されるはずだった。

しかし、肝心の演奏者が集まらなかった。日本人の作品を近隣の国の人に演奏してもらおうこと自体は意味のある企画

だったかも知れないが、中国の人は大國意識がちらつくというか、日本の文化をマイナー扱いし、主導権がとれないことを理由に降りてしまった。韓国はもとより日本文化を忌避する姿勢はなおも消えることなく、参加を見合わせた。こんな状況の中に台湾が入っていくことなどとも出来ず、芸術祭の音楽部門は演奏曲目はすべて室内楽レベルの小編成になるという状況の中で開かれた。

演奏している三人の奏者はいずれもモングル出身。木管楽器も撥弦楽器も西域

の伝統楽器に近いせいもあるう、確かな技巧とおおらかな表現は思いもかけない拾いものになった。

《環》はフルート、ギター、リュートが円を描くように絡み合い、独特の空間を描く作品である。この世界に中国も韓国も入って欲しかった。指揮者だけが浮き上がっている。次回はどうな指揮者が登場するのだろうか、運営には細心の気配りをして欲しい。今後のさらなる発展を望む。

〔録音評〕 かなり広いホールだろうか、残響の中に楽器の音色がかすむ。後部客席に取り残されたような淋しい響き。大編成の演奏を収録という既定路線が変更できなかったのではあるまいか。

新譜月評

声楽曲

北海又帰

新譜月評 The Record Keijutsu 声楽曲

アリア集
■ 《誰も寝てはならぬ》 亀川静香オペラ



亀川静香 (T) 小泉変一
郎指揮 永田町管弦楽団

標題のトゥーランドットのの中のアリアを始めよく知られたオペラの聴かせどころ

ろを集めたもの。これが録音されて間もなく亀川は永田町管弦楽団との縁を切る。今後耳にすることは少なくなるかも知れない。これまで多くのコンサートに出演していただけに淋しい気がする。

演奏はいつもながら馬力がある。身振りや音の強弱が大げさな割に中身が伴わないと「亀川の10%の法則」とケチを付けられたりするが、分かり易く説得力もある。そこに惹きつけられる人も多い。

しかし、有望な新人が続々登場している今日、スタイルの古さは否めない。永田町管弦楽団との最後の協演の際の記者

会見で、このやり方では日本のオペラは駄目になるとか息巻いていたが、実際に駄目になってきたのか、よくするにはどうしたらよいのか、具体的なことを本人からききたい。若い人に追い出された負け犬の遠吠えと思われても仕方ない。

永田町管弦楽団の状況が変わったら戻ってくるに違いないともいわれているが、そんなことはファンの信頼を裏切るだけである、して欲しくない。

残された歌手生命は長いとはいえない

が、決断した以上、新たな境地を広げてもらいたいものだ。これまでの路線のどこがよかったか、どう変えれば永田町管弦楽団時代を上回ることが出来るだろうか。ときには振り返って見るのもよからうが、そのとき思い切って逆さに見たら何かがわかつてくるかも知れない。

「録音評」 オケは鮮明で迫力十分。ソロはおおむね良好だが、不安定。演奏者の身振りが大げさなのが影響しているのかも知れない。ステージではともかく、スタジオ録音では振り返るような体の動きは禁物だ。

正論か、鼻持ちならぬ押しつけか

「レコ軽」読者はこれをどう読む？



「モーツァルトを聴くと頭がよくなる」という説はだれにも有効か？この疑問がきっかけだった（著者前書きより）

モーツァルトを聴きながら脳力アップ



聞こえてきた曲のケツへ
ル番号を入力すると続きが
聴けます。正解が三秒以内
に入力された場合は全曲、
五秒以内ならその楽章また
は五分間だけ再生されます。
知らず知らずのうちに
モーツァルト通になり、頭
がよくなります。
モーツァルトの作品すべ
てを内蔵。ケツヘル番号は
数字とa b cまでが使える
す。

Artist of the Month

西田改正

障害のある人たちにも優しい
ホール作りを呼びかける

西田さんは数年前健康上の理由から演奏活動から遠ざかったが、かつては神童と謳われたヴァイオリニスト。



東横線沿線のホテルの前で

——西田さんの演奏をもう一度聴きたいという方も多くいられますが、未練はありませんか？

西田 ないといったら嘘になりますが、今はこの仕事で第二の人生を楽しんでいます。今も腕の具合は日増しに悪くなっているのです。字を書くことはできませんが、それもいつまで出来ることか、人生設計を考え直しています。

——はじめは脚を悪くされたのですね。

西田 四国のあるホールで演奏会を行ったときのことでした。そのホールは小高い丘の上であり、細い道を歩いて登らなくてはならない場所でした。マネージャーは、「これではお年寄りには来にくいですね」と心配しましたが、そのころ私はまだ元気だったものだから、「なあに、そんな人が来なくても私の演奏会はいつもいっぱいさ」と、脚の悪い人がそばにい

たらとても口に出せないようなことを言っていました。妙に脚の力が抜けたのはその晩からです。坂を下って降りるのに大変苦労しました。

——それでも、座ったままのヴァイオリン演奏会はお続けになりましたね。

西田 脚が悪いだけなら演奏にはほとんど影響がありません。かえって発憤したほどです。ただ、そのころの演奏は、今思えばあがくのみで芸術に内在する人の心の優しさの表現が出来ていたろうか、ふりかえると恥ずかしく思います。

——やがて腕も悪くされるのですね。

西田 前にも言いましたように、私は脚が悪くてもなんのその、をモットーにしていました。障害のある人たちへのチャリティ・コンサートを開かないかと誘われても乗り気ではありませんでした。ある時、しつこく言われたので「イツァーク・パールマンはチャリティやったか!」と言い返しました。自分はパールマン並みのヴァイオリニ

ストなんだから、そんな余裕はないぞ、というわけです。偶然なのか罰当たりなのか、左手の指に違和感を感じだしたのはその翌日からでした。

——演奏活動を諦めるのは大変なことだったでしょう。

西田 もちろんですが、それまで気が付かなかったことを悟りました。私は初めて、障害を抱えている方たちの不便さがわかるようになったのです。気が付くとホールもホテルも障害のある人への本当の心配りがされていない。

そんな無神経な設計をした人だって、いつ障害を抱えるようになるかもしれないのに、怒りを憶えます。これからの活動によってどれだけの施設が改善されるかわかりませんが、かつての私の言動に対する罪滅ぼしの意味で本当に動けなくなるまで全力を尽くしたいと思っています。

来年（2007年）はベートーヴェン没後180年

記念国際コンクールの出場者・審査員募集

World Beethoven Competition



演奏者出場資格：

同じコンクールに3度も落ちることはできないと屈辱を感じ、意欲を失いかけていること

審査員採用資格：

米国籍でないこと

お知らせ

先般、一部報道で伝えられましたように、某ライブドア関連の投資会社が当「レコード軽術」を買収することを企て、それを聞いた「家内工業」が創刊以来のパートナー関係を解消する意志を示したという噂はまったく事実無根です。

某ポータルサイトに「レコード軽術」が取り上げられているのは事実ですが、前に述べたこととはまったく関係なく、今後も堅実・健全な運営を続けていくことに変わりはありませんので、どうかよろしくお願いたします。



春はCDの処分はちょっと待って！

不要CDが花粉吸い取り
板になるスプレー新開発

CD引換券

不要なCD 5枚と本券でご希望のCDと交換します
オントモグループ **オントモ燃処理**株式会社

有効期限 2006.4.1

もう一杯、音楽もアンコール

「レコ軽」発祥の地「グレル」

創立記念日特別イベント



つぎのお客様を同伴の方は
お通し特別サービス

- おしゃべりな女
- 風変わりな女
- 場末のねえさん



MITTENWALD

移転しました

CD高価買取

 ミッテンヴァルト

<http://www.7a.biglobe.ne.jp/~mittenwald/>

静謐、月の光。音楽。

BAR

大鴉 《お、がらす》

バッハを聴きながらスコッチを、
モーツァルトに浸りながらワインを……

喧噪を離れて、クラシック音楽を
ゆっくりお楽しみいただけます。



大阪市住吉区帝塚山中 3-7-7 ミューズコート帝塚山 TEL06-6672-8777

編集後記

この半年、いろいろなことがありました。しかし、事件が多ければネタ探しも楽になることはありません。今回案を練りながら気が付いたのは、偽装事件はパロディ化しやすいこと。偽装の偽装ですからね。

バックナンバーのハイライト、真面目なエッセイなどを

<http://www3.ocv.ne.jp/~yanagawa>

で見ることができます。

レコード軽術 '06年春号（通巻第37号）

2006.4.1 第1刷発行

編集発行人 柳川誠介

〒195-0054 町田市三輪町539-119

TEL&FAX (044) 989-8510

yanagawa@m2.ocv.ne.jp

PDF01426@nifty.ne.jp

印刷・製本 家内工業

hiroko-y@m2.ocv.ne.jp

